

③湿気追い出し大作戦

雨具の内側にこもる湿気が大敵なのは先に挙げた通り。つまり、その湿気を上手に逃がしてやればかなり快適になるわけだ（その意味では背負ったバックバックごとすっぽりカバーできて、そもそも湿気のこもりにくい構造のポンチョは優秀ではあるのだが）。

屋内外を問わず、屋根のある場所や傘を併用できる場所などではウェアの前を開けて換気をしておくこと、屋内に入ったら即座にタオルなどで表面の水気を拭き取ること、下の服そのもの、特に肌に直に触れる肌着類が濡れたり、湿った時にはすぐに着替えることの3点は常に心がけよう。

可能ならば雨具そのものも時々脱いで内側の湿気も拭き取るようにするとなおよい。また、混みあう会場内や駅での周囲への迷惑も考え、屋内に入ったら雨具や傘、服の水気はよく拭きとってから行動に移ることを徹底しよう。

④身体以外の防水にも注意

大きな傘を持っていかない場合、まずそのカバー範囲から抜けてしまうのが手に入れた大切な戦利品を納めておくカバンだ。

雨は上から降り注ぐだけでなく、地面から跳ねあがってもくる。まさに上から下からの水責めに対抗できるだけのしっかりしたものを用意しなくてはならない。

きちんとしたアウトドアギアブランドのメッセンジャーバッグなどの全天候型のバッグなら十分な防水が施されているが、ファッション性を重視したものやある程度使い込まれたものでは、それ単体の満足な防水性能は期待できないだろう。防水スプレー類をよく吹き付けておけば気休め程度の効果はあるかもといったところだ。

カタログや雑物はバッグが浸水しても大丈夫のようにビニールのバックや袋などに小分けしておこう。また、購入した同人誌類もプラケースやビニール袋などにいったん収めてから改めてバッグにしまうようにすれば安心だ。

いうまでもないが紙袋類は湿気や水濡れには非常に弱い。少し濡れただけでもあっという間に破れてしまうので要注意だ。

カバンに次いで濡れることが避けられないのが靴だ。これも濡れたままでは様々なフットトラブルを引き起こしかねず、とにかく歩きが基本のコミケでは非常にツライことになりかねないために、可能なら完全防水のものを用意したい。

とはいえ防水靴でも完璧はありえないので、靴下はきちんと履き、それも綿ではなくポリウレタンやウール、ポリエステル系の濡れても乾きやすい素材のものを選択しておこう。

また、素足にサンダルなどを履く場合も、濡れてもすぐ乾くだろうとたかをくくらずに、必ず一度脱いで足の水気をよく拭きとってから履きなおすようにすると、ストラップと肌が触れている部分の皮が向けてしまったり、マメができてしまうといったリスクを大きく低減できる。というわけで小さいものでもタオル類は絶対に忘れずに！



●雨具は【透湿防水素材】が鉄則！●

記事本文中でも、雨具（レインウェア/レインコート）の前にわざわざ付いている防水透湿素材という言葉、これは簡単に言えば、雨は内側に通さないが、服の内側の湿気や汗は外に追い出すという性能を持った素材のことを指している。

Gore-Tex（ゴアテックス）を代表とする防水透湿素材の素晴らしい点は、撥水・防水加工といった工業的加工ではなく素材そのものがそういった性能をもっているために、物理的に擦り切れたり穴でも開かない限り性能をずっと維持してくれるということだ。

一般的な防水スプレーの類がまともに雨に当たったらほぼ何の役にも立たないこと、単純な防水素材のレインウェアが雨は防げても時間がたつにつれてその内側に籠った自分の身体からの湿気で濡れていくことを考えれば、まさに福音ともいえるアイテムで、一回その恩恵を被ったら二度と手放せなくなること請け合いである。

レインウェアやレインコートに限らず、最近では靴に使用されている場合も多く、これは本気でオススメ。ゴム長靴のように、水溜りに踏み込んで一切浸水しないのだ。

このComi-Naviの中で再三登場するポリエステル系速乾素材と組み合わせれば、如何なる雨も怖れるに足らず。まさに化学の勝利!!! なのだ。

……とは言え、さすがにこれらの素材、性能に見合ってお値段的には決して安価とは言いづらいので、コミケのためだけに購入するなら（ついでに言えば、入場してしまえばあとは雨具は無用の荷物だ）、ここはやっぱり、雨の中で長時間待機するというスケジュールそのものを見直したほうが、絶対にお得だと思うのですが、どうでしょうかダメでしょか……??

逆に大手狙いなどで入場後も延々雨風に晒される覚悟を完了している方には、この化学の甲冑を是非とも装備して頂きたい。